

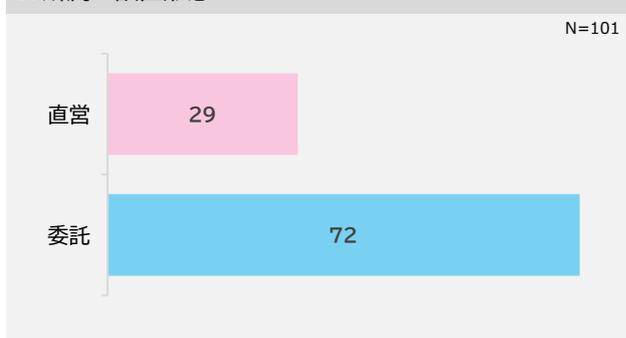
令和4年度 地域包括支援センター・福祉施設領域保健師職能小委員会 地域包括支援センター保健師等のキャリアラダーに関する調査

調査期間 : 令和5年3月10日～3月24日

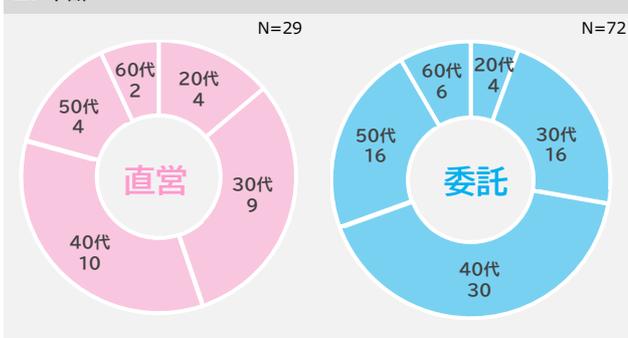
対象 : 県内包括支援センター70カ所の保健師・看護師166人
(保健師109人/看護師57人)(R4.4月時点)

回収数 : 101(回収率60.8%) (数字は人数)

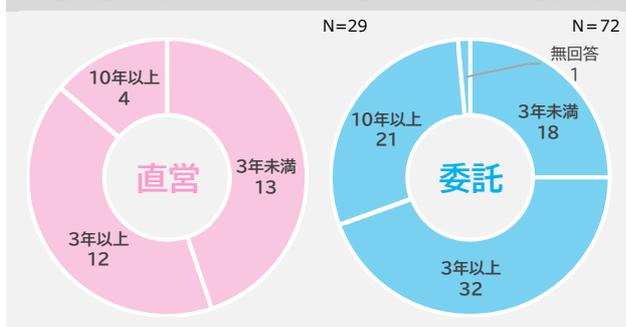
1. 所属の設置形態



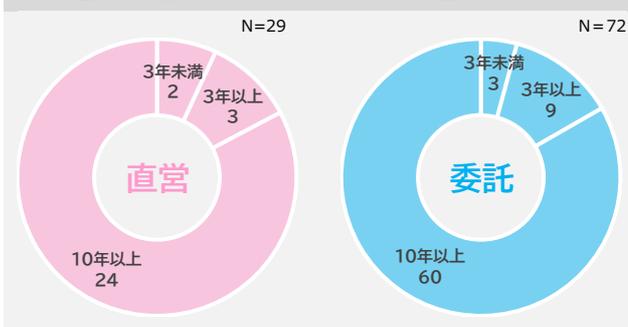
2. 年齢



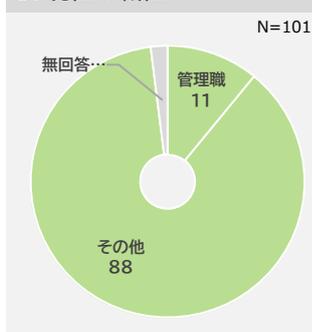
3. 地域包括支援センターでの保健師・看護師職の経験年数



4. 保健師・看護師職としてのこれまでの経験年数



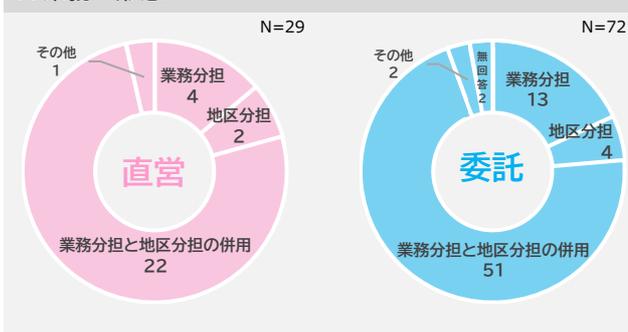
5. 現在の職位



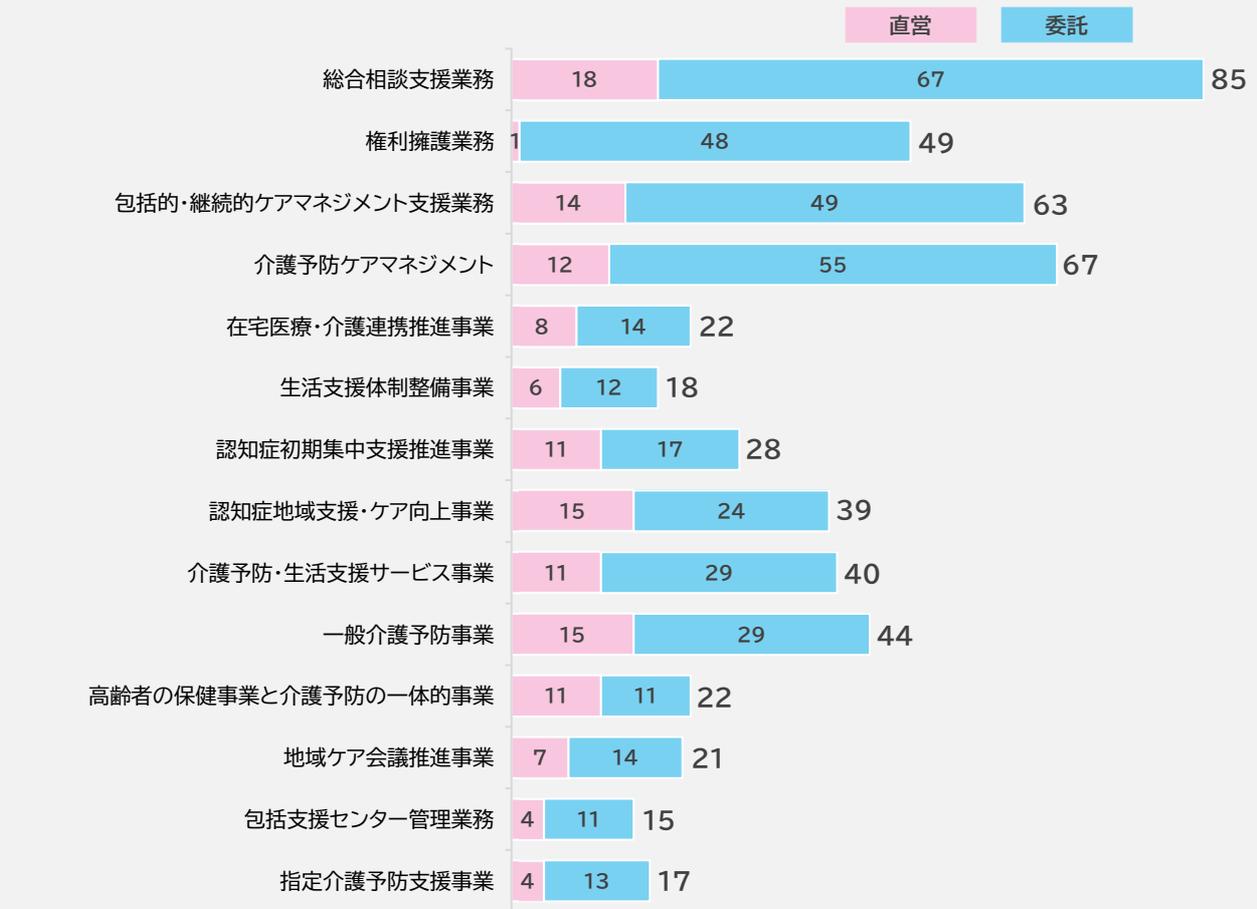
6. 看護協会への入会



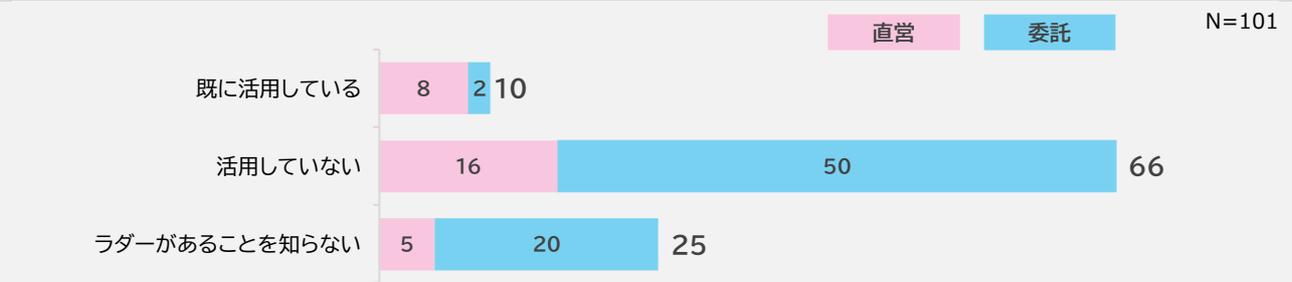
7. 業務の形態



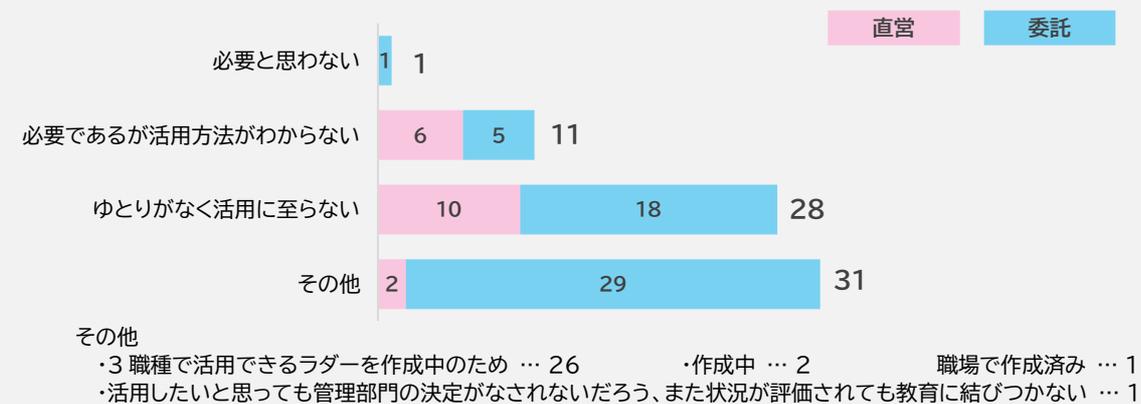
8. 担当している業務(複数回答)



9. 協会作成「地域包括支援センター保健師等キャリアラダー」(以下包括ラダーという)の活用

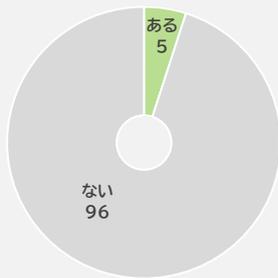


10. 活用していない理由(複数回答)



11. 包括ラダー以外に保健師・看護師に特化したキャリアラダーの有無

N=101



12. 問 11 のラダー作成年度

N=5

令和 4 年度	3
平成 31 年度	1
平成 26 年度	1

13. 包括ラダーの活動領域での習熟状況

N=101

		A1 A2	A3	A4 A5	無回答
対人支援活動	1-1 個人及び家族の支援	38	42	18	3
	1-2 団体の支援	51	34	13	3
地域支援活動	2-1 地域診断・地区活動	54	34	10	3
	2-2 地域組織活動	52	35	10	4
	2-3 ケアシステムの構築	53	33	11	4
事業化・施策化のための活動	3-1 事業化・施策化	55	33	9	4
健康危機管理に関する活動	4-1 健康危機管理の体制整備	61	32	4	4
	4-2 健康危機発生時の対応	56	38	3	4
管理的活動	5-1 PDCAサイクルに基づく事業・施策評価	54	32	11	4
	5-2 情報管理	61	30	6	4
	5-3 人材育成	58	32	7	4
保健師の活動基盤	保健師の活動基盤	68	22	6	5

【以下は、記述形式の設問への回答から代表的な意見を抽出したものです】

問 14 自己点検してみて自分の習熟の状況をどのように感じたか？

今後のラダーの活用についてどう思うか？

- ・ ラダーは、自分がどれ位の習熟度なのかわかりやすい。
- ・ ラダーを意識しないと、毎日の仕事に流されてスキル向上は難しいと感じた。
- ・ 自身の現状と到達目標が見える化されてわかりやすい。モチベーションも上がる。
- ・ 振り返る余裕がなかったが、年度初めや終わりの時期にはラダーを使って確認したいと思う。

問 15 センターで働く保健師・看護師としてのやりがい

- ・ 医療的な分野で助言や提案ができ、対象者の生活の質の向上、自立支援に携われる。
- ・ 予防的支援により、健康状態の維持・増進が可能となり、健康寿命延伸に寄与できる。
- ・ 他職種と連携して地域づくりができる。
- ・ 地域の人と課題を共有して、住みやすい地域に向けた課題解決に取り組める。
- ・ 地域が良い方向に進んでいく喜びを、利用者や地域関係者と共有できる。
- ・ 個の課題から、資源開発の実現ができる。
- ・ 地域での取り組みを全地域に広げたり、施策につなげることができる。

問 16 センターで働く保健師・看護師としての課題

- ・ 制度が目まぐるしく変わり、新規事業が増え、他職種が多くなり、保健師の本質が問われる。
- ・ 業務上では3職種での違いがないため、保健師・看護師としての持性を活かせるかどうか個人に任せられる。
- ・ 地域包括支援センターにおける保健師の専門性について学べる場が少ない。
- ・ センター内の職員研修制度はあるものの、保健師を教育・育成する制度が整っていない。
- ・ 保健事業、認知症地域支援、地区診断にもっと力を入れたいが、現実ケアマネ業務に追われている。

調査結果からの考察

○複数の調査回答者から、「**保健師等の役割**」についてこんな声がありました。

- ・「多職種が協働する中で、保健師等の専門性・役割は何なのか・・・？」
- ・「臨床に比べて、保健師等の専門性が見だしにくく、達成感につながらない」
- ・「地域包括支援センターにおける保健師等の役割が不明確でやりがいを感じにくい」



多職種が協働する地域包括支援センターにおいて、業務分担も様々ある中で、保健師等の役割（専門性）が見だしにくいという人も、少なからずいるのではないのでしょうか。



「やりがいを感じる活動」として書かれていた次のような声を分析してみると、保健師等の役割（専門性）が見えてきます。

①

- ・「疾病・介護を防ぐ予防的支援や自立支援」
- ・「医療・看護の視点でのケース支援」
- ・「医療依存度の高い人の在宅生活を可能とする支援」
- ・「医療現場とのスムーズな連携」



医療専門職としての役割

- 医療機関で働く看護職との違いは、主に予防医療を担うこと
- 疾患の理解を通じたアセスメントやアプローチが強み
- 個人だけでなく地域の健康課題へのアプローチも大きな役割

②

- ・「個人だけでなく、地域も視野に入れた活動ができる」
- ・「個の課題が資源開発につながる」
- ・「地域の人と課題を共有して共に課題解決に取り組める」
- ・「他職種と連携した地域づくりができる」
- ・「地域課題から政策形成へつなげることができる」



保健師活動のコアである「みる」「つなぐ」「動かす」活動の中に役割がある！

- 人や地域、データ等を見て健康課題をアセスメント（みる）
- 人や地域、組織等へ働きかけてマネジメント（つなぐ）
- 課題解決に向けた取組・政策形成等のアプローチを行う（動かす）



やりがいを持って地域に貢献できる保健師等を目指してステップアップするために！

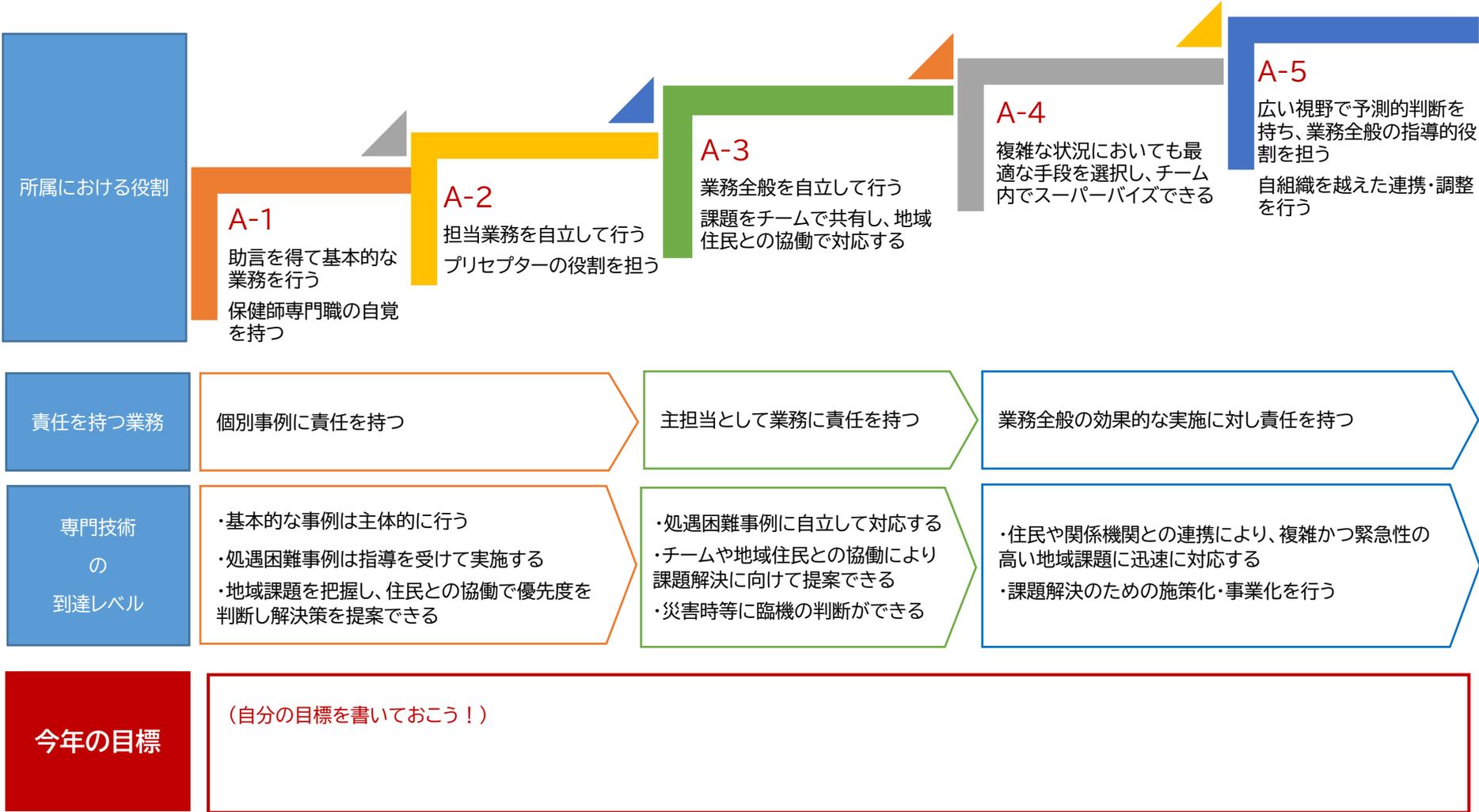
「地域包括支援センター保健師等キャリアラダー」の活用が有効！

- ・到達目標の見える化：どんな役割が期待されているのか？
何を目指せばいいのか？
- ・習熟度の確認：自身の成長を確認し、次の目標設定を行う



地域包括支援センター保健師等キャリアラダーの段階図

(地域包括支援センター・福祉施設領域保健師職能小委員会作成)



保健師等が実践する 6 つの活動領域



保健師等キャリアラダー

～地域包括支援センター編～

2022～2023 保健師職能地域包括支援センター・福祉領域小委員会作成

保健師等キャリアラダーって何？

- 活動を類型化し、求められる能力をレベル別に整理して示したもの。
- 職場内での自分の立ち位置や役割を確認できる。
- 「自分はどこまでできていればいいのか。」 「どこまで、できているのか。」
- 自分の成長過程を知るための「指標」
- 階段を一段一段登る様にキャリアアップすることが必要。

保健師等のキャリアラダーの必要性

- 包括の保健師等は何をする者なのか、保健師等の役割・保健活動の成果・保健師等の専門性の可視化。
- 保健師等としてのやりがい、達成感。保健師等としての自信の獲得。
- 自分のそれぞれの活動領域での習熟の状況を的確に把握するため。

キャリアラダーのメリット

- 活気を促し、“成長したい”が惹起される。
- 専門性が見やすくなり、保健師等個々の適性と習熟している能力が客観的に評価できる。
- 包括という組織・特性を考慮したキャリア形成を目指すことができる。

キャリアラダー使用イメージ

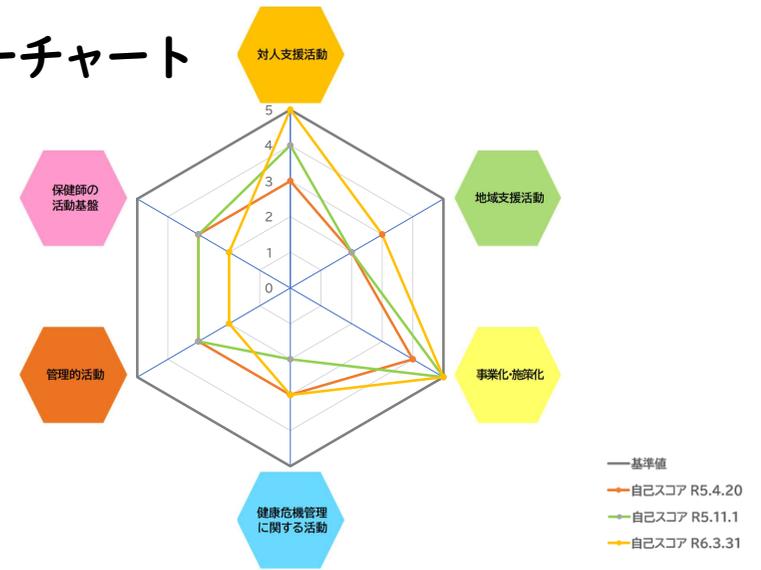
① 自己点検

今の自分の習熟状況を知ろう。
レーダーチャートを使って点検してみよう！



©公益社団法人岡山県看護協会「かんご君・ナースちゃん」

レーダーチャート



② 目標をたてる

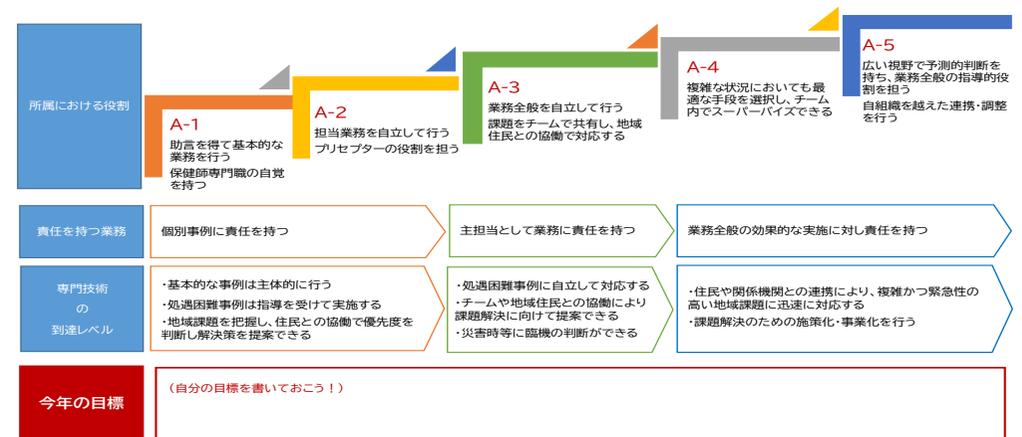
この部分がまだ力がついていないかなあ…。
今度はこの力がつくようにも目標を立ててみよう。



©公益社団法人岡山県看護協会「かんご君・ナースちゃん」

地域包括支援センター保健師等キャリアラダーの段階図

(地域包括支援センター・福祉施設領域保健師職能小委員会作成)



③ 振り返り (評価時期を記入しておく)

どれくらい力がついたかな？
レーダーチャートで振り返っ
てみよう。



©公益社団法人岡山県看護協会「かんご君・ナースちゃん」

④ 次の段階の目標をイメージしましょう

次のステップに進みたい。
ワクワク！頑張りたいなあ。



©公益社団法人岡山県看護協会「かんご君・ナースちゃん」

包括の保健師等に期待されていること

- 医療専門職としての力を発揮
 - ・「疾病・介護を防ぐ予防的な視点。自立支援」
 - ・「医療・看護とのスムーズな連携」
- 保健師活動のコアである「みる」「つなぐ」「動かす」活動の実践により成果を出す。
 - ・ 個人から家族へ家族から地域へ。
地域の課題を政策へつなげる。
 - ・ 多職種と連携し、課題解決に取り組む

4.健康危機管理に関する活動

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R5.4.20	R5.11.1	R6.3.31
4-1. 健康危機管理の体制整備	・生活健康危機管理の意味や目的を理解することができ住民に普及啓発することができる。 ・マニュアルに基づき自分の役割を理解し動くことができる。		・地域特性を踏まえ、生活健康危機低減のための具体的な方法をセンター内で提案・共有できる。 ・センターとして地域で要配慮者の把握ができる。 ・センター内で危機管理のマニュアルを作成し、住民の自助互助力を高めることができる。		・地域特性を踏まえ、生活健康危機低減のための具体的な方法を行政に提案できる。			
4-2. 健康危機発生時の対応 (災害・感染症等)	・必要な対応をセンター長の指示のもと実施できる。 ・現状を把握し情報を整理しセンター長に報告することができる。		・必要な情報を整理し、組織内の関係者へ共有できる。 ・変化する状況を分析し、二次的被害を予測し、予防活動を計画・実施できる。		・組織内外の関係機関との連携・調整ができる。 ・有事に起こる複雑な状況に、関係機関と連携し迅速に対応できる。			
スコア	1	2	3	4	5	3	2	3

評価日を入力する

自分のスコアの点数を記入します
(例)

自分のスコアの点数を記入します
(例)

自分のスコアの点数を記入します
(例)

スコア点記入

5.管理的活動

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R5.4.20	R5.11.1	R6.3.31
5-1. PDCAサイクルに基づく事業・施策評価	・PDCAサイクルに基づく事業評価方法と意義を理解できる。 ・3職種と共に担当業務の評価及び見直しを実施できる。		・センター内で事業評価が適切に実施できるよう職員と共有できる。 ・事業計画立案時に評価指標を適切に設定できる。 ・センター運営上の課題の把握と整理ができる。		・組織内外の関係機関とともに事業評価を行い、事業の見直しや新規事業の計画を立案できる。 ・施策立案時に評価指標を適切に設定できる。			
5-2. 情報管理	・センターにおける情報管理に係る基本方針を理解し、業務に係る文書等を適切に管理することができる。 ・個人情報を適切に取り扱うことができる。 ・業務の記録を適切に行い関係機関への情報伝達ができる。		・センター組織内で適正に情報が取り扱われているか管理、指導ができる。		センター業務に係る情報管理上の不測の事態が発生した際に、センター内で主導して対応できる。			
5-3. 人材育成 力量向上	・研修に積極的に参加し、研修を通して自分の担当事業に生かすことができ、他職種との連携を知ることができる。 ・業務を行う上で必要な知識、技術の習得に積極的に取り組み、専門性の向上に努める。		・他センターや行政の保健師等との交流を通して人材育成上の課題を抽出し、見直し案を提案できる。 ・センター内の職員同士で勉強会等について、積極的に企画、実施することができる。 ・必要に応じて、他の職員に能動的に助言、指導することができる。		・センター長として、より高い専門性を身につけることができるよう自己研鑽に努める。 ・組織の人材育成のためOJTやスーパービジョンに必要な力を身につける。			
スコア	1	2	3	4	5	3	3	2

評価日を入力する

自分のスコアの点数を記入します
(例)

自分のスコアの点数を記入します
(例)

自分のスコアの点数を記入します
(例)

スコア点記入

6.保健師の活動基盤

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R5.4.20	R5.11.1	R6.3.31
保健師の活動基盤	・地域の生活課題を明らかにし、根拠に基づくセンター業務を実施するため、記録を適切に行うことができる。		・研究的手法を用いて事業の評価ができる。		・研究的手法を用いて分析し、根拠に基づきセンター業務の計画ができる。			
スコア	1	2	3	4	5	3	3	2

評価日を入力する

自分のスコアの点数を記入します
(例)

自分のスコアの点数を記入します
(例)

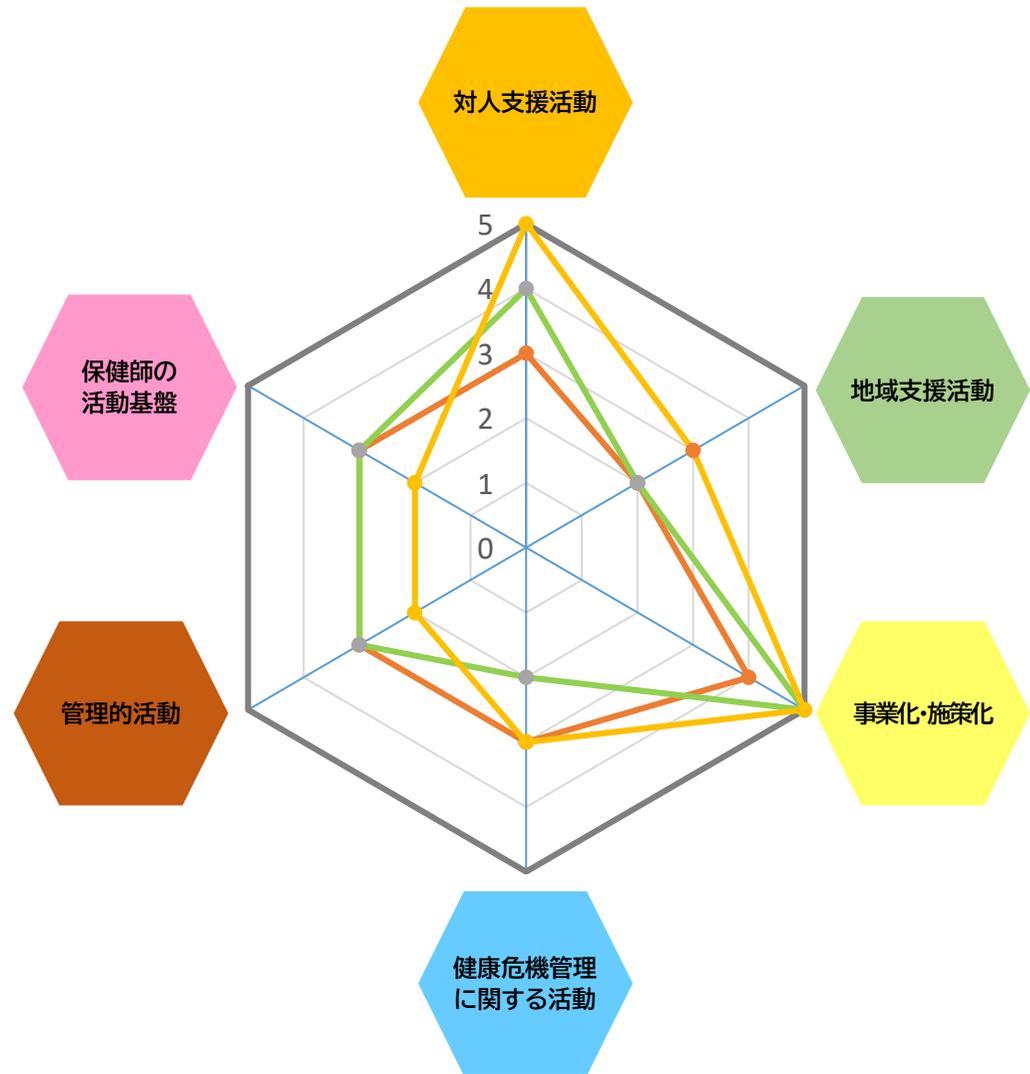
自分のスコアの点数を記入します
(例)

地域包括支援センター保健師等キャリアラダー

特 性		自己スコア		
		R5.4.20	R5.11.1	R6.3.31
対人支援活動	5	3	4	5
地域支援活動	5	2	2	3
事業化・施策化	5	4	5	5
健康危機管理に関する活動	5	3	2	3
管理的活動	5	3	3	2
保健師の活動基盤	5	3	3	2



※この表には直接入力しないこと



EXCELファイルは
こちらから
ダウンロードできます

— 特 性
— 自己スコア R5.4.20
— 自己スコア R5.11.1
— 自己スコア R6.3.31

地域包括支援センター保健師等キャリアラダー【記入用紙】

- 1) 評価日の決まりはありません。1から5段階評価で、段階の目安は、1（助言を得て基本的な業務を行う）、2（担当業務を自立して行う）、3（業務全般を自立して行う）、4（チーム内でスーパーバイズできる）、5（業務全般の指導的役割を担う）となります。
- 2) 評価した理由（選んだ根拠）を自己スコア【記入欄】に記入しておく次回に役立ちます。
- 3) 記入用紙の自己スコア（0になっているところ）に評価点を入力してください。

1. 対人支援活動

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R . .	R . .	R . .
個人及び 家族への 支援	<ul style="list-style-type: none"> 事例のアセスメントを行い、支援を実践できる。 センター内で連携し支援を検討できる。 支援に必要なフォーマル及びインフォーマルな資源を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 処遇困難事例のアセスメントを行い、支援を実践できる。 支援に必要なフォーマル及びインフォーマルな資源を適切に導入及び調整できる。 複合的な課題を抱える住民の相談・支援についても、関係機関とも連携した包括的な支援を適切に実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複雑かつ緊急性の高い生活健康課題を迅速に明確化し、必要な資源を調整し効果的な支援を実践できる。 生活健康課題に予防的に介入できる。 					
集団への 支援	<ul style="list-style-type: none"> 集団の特性を把握し、支援を計画し自立して支援できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団の支援を通して、地域の生活健康課題を明確化することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団への支援を通して、住民による地域の生活健康課題の解決を支援することができる。 					
スコア	1	2	3	4	5	0	0	0

2. 地域支援活動

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R . .	R . .	R . .
地域診断・ 地区活動	<ul style="list-style-type: none"> 生活健康課題を把握するための方法がわかる。 人口動態、高齢化率、地域特性や歴史を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民の生活健康課題が語れる。 地域診断や地区活動で明らかになった生活健康課題を事業計画立案に活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> センター事業を適切に評価し、より効果的な事業展開ができる。 					
地域組織 活動	<ul style="list-style-type: none"> 様々な組織の活動や役割を理解する。 多様な住民ニーズを把握しながら、住民組織とともに活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民とともに活動しながら、ニーズに応じた組織化が提案できる。 地域の幅広い関係者に積極的に情報等を発信するとともに、地域づくりや協働体制づくりに向けた働きかけを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な住民組織のネットワークを立ち上げ、地域組織の育成を行うことができる。 					
ケアシス テムの構築	<ul style="list-style-type: none"> 市町村における地域包括ケアシステム構築に向けた方針を理解できる。 担当地区の各種社会資源を理解し活用・調整ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の生活健康課題や地域特性に基づき関係機関と協働し、地域包括ケアシステムの改善、強化について検討できる。 市町村における地域包括ケアシステム構築に向けた方針を理解し、その実現に必要な社会資源の整備等の課題についての提案ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村の方針を踏まえつつ、専門的見地からの地域包括ケアシステム構築への具体的提案ができる。 					
スコア	1	2	3	4	5	0	0	0

3. 事業化・施策化

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R . .	R . .	R . .
事業化・施 策化	<ul style="list-style-type: none"> 市町村の目指す方向性、重点施策が理解できる。 担当事業を通して、課題を解決するための専門職としての提案ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果や評価等をまとめ、組織内で共有することができる。 地域の生活健康課題を明らかにし、評価に基づく業務の見直しや新規計画を提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> センターを代表して、地域の様々な活動、会議等の場に出席し、センターの役割や事業を説明し、効果的な取り組みを提案できる。 					
スコア	1	2	3	4	5	0	0	0



EXCELファイルは
こちらから
ダウンロードできます

4.健康危機管理に関する活動

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R . .	R . .	R . .
4-1. 健康危機管理の体制整備	・生活健康危機管理の意味や目的を理解することができ住民に普及啓発することができる。 ・マニュアルに基づき自分の役割を理解し動くことができる。		・地域特性を踏まえ、生活健康危機低減のための具体的な方法をセンター内で提案・共有できる。 ・センターとして地域で要配慮者の把握ができる。 ・センター内で危機管理のマニュアルを作成し、住民の自助互助力を高めることができる。	・地域特性を踏まえ、生活健康危機低減のための具体的な方法を行政に提案できる。				
4-2. 健康危機発生時の対応 (災害・感染症等)	・必要な対応をセンター長の指示のもと実施できる。 ・現状を把握し情報を整理しセンター長に報告することができる。		・必要な情報を整理し、組織内の関係者へ共有できる。 ・変化する状況を分析し、二次的被害を予測し、予防活動を計画・実施できる。	・組織内外の関係機関との連携・調整ができる。 ・有事に起こる複雑な状況に、関係機関と連携し迅速に対応できる。				
スコア	1	2	3	4	5	スコア点記入 0	0	0

5.管理的活動

活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R . .	R . .	R . .
5-1. PDCAサイクルに基づく事業・施策評価	・PDCAサイクルに基づく事業評価方法と意義を理解できる。 ・3職種と共に担当業務の評価及び見直しを実施できる。		・センター内で事業評価が適切に実施できるよう職員と共有できる。 ・事業計画立案時に評価指標を適切に設定できる。 ・センター運営上の課題の把握と整理ができる。	・組織内外の関係機関とともに事業評価を行い、事業の見直しや新規事業の計画を立案できる。 ・施策立案時に評価指標を適切に設定できる。				
5-2. 情報管理	・センターにおける情報管理に係る基本方針を理解し、業務に係る文書等を適切に管理することができる。 ・個人情報を適切に取り扱うことができる。 ・業務の記録を適切に行い関係機関への情報伝達ができる。		・センター組織内で適正に情報が取り扱われているが管理、指導ができる。	センター業務に係る情報管理上の不測の事態が発生した際に、センター内で主導して対応できる。				
5-3. 人材育成 力量向上	・研修に積極的に参加し、研修を通して自分の担当事業に生かすことができ、他職種との連携を知ることができる。 ・業務を行う上で必要な知識、技術の習得に積極的に取り組み、専門性の向上に努める。		・他センターや行政の保健師等との交流を通して人材育成上の課題を抽出し、見直し案を提案できる。 ・センター内の職員同士で勉強会等について、積極的に企画、実施することができる。 ・必要に応じて、他の職員に能動的に助言、指導することができる。	・センター長として、より高い専門性を身につけることができるよう自己研鑽に努める。 ・組織の人材育成のためOJTやスーパービジョンに必要な力を身につける。				
スコア	1	2	3	4	5	スコア点記入 0	0	0

6.保健師の活動基盤

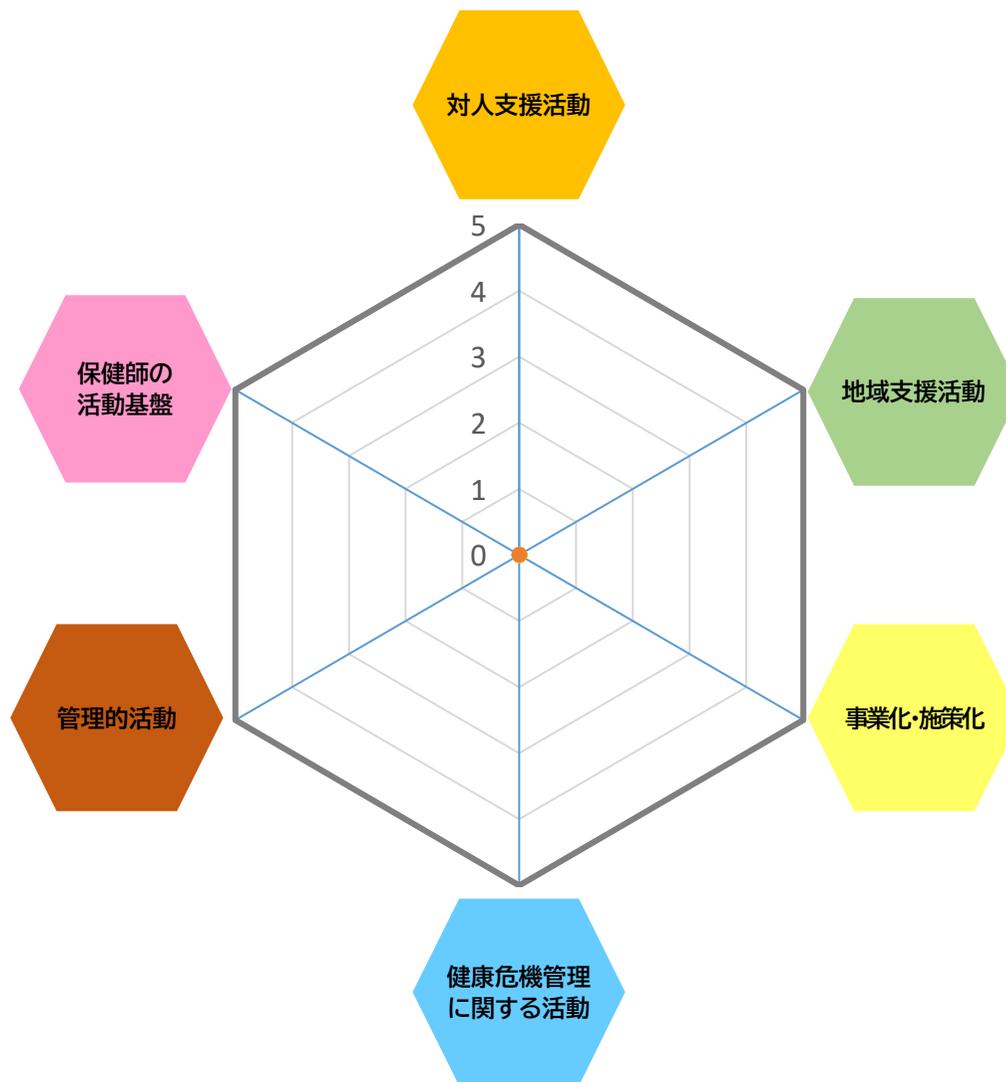
活動領域	A-1 (助言を得て基本的な業務を行う)	A-2 (担当業務を自立して行う)	A-3 (業務全般を自立して行う)	A-4 (チーム内でスーパーバイズできる)	A-5 (業務全般の指導的役割を担う)	自己スコア【記入欄】		
						R . .	R . .	R . .
保健師の活動基盤	・地域の生活課題を明らかにし、根拠に基づくセンター業務を実施するため、記録を適切に行うことができる。		・研究的手法を用いて事業の評価ができる。	・研究的手法を用いて分析し、根拠に基づきセンター業務の計画ができる。				
スコア	1	2	3	4	5	スコア点記入 0	0	0

特 性		自己スコア		
		R . .	R . .	R . .
対人支援活動	5	0	0	0
地域支援活動	5	0	0	0
事業化・施策化	5	0	0	0
健康危機管理に関する活動	5	0	0	0
管理的活動	5	0	0	0
保健師の活動基盤	5	0	0	0



※この表には直接入力しないこと

地域包括支援センター保健師等キャリアラダー



EXCELファイルは
こちらから
ダウンロードできます

— 特 性
—●— 自己スコア R . .
—●— 自己スコア R . .
—●— 自己スコア R . .

14. 問 13 で自己点検してみて自分の習熟の状況をどのように感じましたか？
また、今後のラダーの活用についてどう思いますか？

センターで働く保健師・看護師としてのやりがいや課題

15. センターで働く保健師・看護師としてのやりがいを教えてください

16. センターで働く保健師・看護師としての課題を教えてください

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。